

## 約17年間、慢性期病院に勤務して感じたこと

札幌市医師会  
札幌西円山病院

いそべ  
磯部 たけし  
健

札幌西円山病院は常に進化し続けている。そう感じています。私は2006年7月から当院に勤務しています。初めは介護病棟や回復期リハビリ病棟などに配属されましたが、2007年4月より障害者一般病棟（8B病棟）に配属され、それ以降、同じ循環器内科出身の先輩医師（北大出身の優秀な先生です）とペアを組み、8B病棟を2人の医師で守り続けています。この約16年間で入院している患者さんの様子も変わってきました。以前はほとんどの患者さんが経管栄養を選択し、寝たきりの方がほとんどだったのですが、最近になり、寝たきりの患者さんも確かにいますが、比較的まだ動ける患者さんも入院するようになってきました（ただ全体的に病態は重症化しているという印象はあります）。入院日数も以前に比べれば劇的に短くなってきています。ある程度治療が終了したほとんどの患者さんは、次の療養先に転院もしくは退院するようになりました。リハビリやケアを駆使し、患者さんが次の療養先で安心、安全に暮らせるよう調整するのが私たちの主な仕事となります。そのためには、もちろん患者さんを内科的にも安定させることが条件になります。

私が勤務を開始した当初は、峯廻攻守院長（現在の名誉院長）でしたが、その診療の姿勢から、高齢者医療の哲学を学ばせていただきました。また、私自身が札幌医科大学旧第二内科で診療の基礎から教えていただいた、浦信行院長になってからは、難しい時代を切り開く、これからの高齢者医療の方向性を示していただき、私も微力ながら、札幌西円山病院の進化に協力することができました。2016年4月からは神経内科の先生方にも診療部に加わっていただき、その後、神経内科総合医療センターが設立されました。神経内科の先生方はとても勉強熱心で、私もとても良い刺激をもらっています。

当院の病院理念は「親切、丁寧、敬愛」です。私もこの理念を常に念頭に日々診療しています。高齢者に寄り添い、信頼される医療を提供することが私の使命と感じています。過去には単に慢性期医療を中心に提供していましたが、慢性期救急医療を含む多機能慢性期病院として、Subacute患者さんをも受け入れる病院へと進化しつつあります。私が当院に勤務し続けて感じたことは、患者さんやご家族との距離が近い医療を提供できているということです。急性期の病院と比較して、患者さんひとりひとりに合った、テーラーメイドの医療を提供できます。

先ほども言いましたが、患者さんやご家族に寄り添い、他のメディカルスタッフと密に連携し、その患者さんにとってどうしたら幸せになれるのか、真剣に向き合って、方向性を決めることができます。これは当院の強みと感じています。当院は老年内科を標榜しています。ぜひ、若い先生方にも老年内科の現場がどういうものなのか、見に来てほしいと感じています。そして急性期病院ではあまり体験できない、その人自身全身をトータルケアできる現場を体験してほしいと思います。

当院には回復期リハビリ病棟、医療療養病棟もあり、多くの先生方が活躍されております。また、全体の病床数は603床、その他に60床の介護医療院も併設しております。当院では、障害者一般病棟、医療療養病棟、回復期リハビリ病棟においてそれぞれ専門的治療を提供できております。私が日々感じていることは、当院に勤務している病院スタッフひとりひとりが自分の仕事にプライドを持って仕事ができているということです。今後も私自身も誇りを持って、より質の高い高齢者医療を提供していきたい、そう感じています。他の病院に勤務する医師に、「札幌西円山病院なら安心して任せられる」、そう感じてもらえるよう日々研鑽を積み、努力したいと思っています。

ご高齢な患者さんを入院させる必要がある、そんな時には、当院もぜひ選択肢の一つに挙げていただけたらありがたいです。診療連携などでご縁があった際は、当院に相談していただけたらと思います。患者さんには「札幌西円山病院を選んでよかった」と思ってもらえるよう、誠心誠意努力することをお約束いたします。最後になりましたが、札幌西円山病院を今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



札幌西円山病院正面玄関にて撮影